

# みんなの本だな

4・5・6年生へ

## ポータブル・ゴースト

マーガレット・マーヒー / 作 幾島幸子 / 訳

岩波書店 [933マ]



ディッタは学校の図書館でふるい本にとりついている幽霊のピリーと出会います。そして、ディッタはピリーとパソコン好きの妹のミラベルといっしょに、友だちのマックスの部屋にとりついている幽霊のなぞにせまります。

## 元気になってねフェンディ

大塚敦子 / 写真・文 小学館 [493オ]

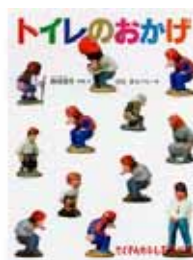


フェンディは心臓の病気で入院している5さいの女の子です。フェンディの病院にはからだのどこがわるいのか、どんなふうになおすのかを人形をつかってわかりやすく説明してくれたり、いたい時やくるしい時に話し相手になってくれる

「チャイルド・ライフ・スペシャリスト」のエリンさんがいます。

## トイレのおかげ

森枝雄司 / 写真・文 福音館書店 [383モ]



だれでも1日1回はお世話になるトイレ。この本にはいろんな国のトイレのことが書いてあります。日本の昔のトイレやジェット機のトイレや宇宙船のトイレのことまで。いつも使っているトイレに「ありがとう」といいたくなる本です。

## いちばんたいせつなもの

八百板洋子 / 編・訳 福音館書店 [908イ]

おうさまはとてもかしこい娘を妻にしました。けれどもある日おうさまはその娘にひどくはらをたてて「もうでていくがいい。」といいます。娘はでていくときにはいちばんたいせつなものをもっていくことをゆるされていたので、いちばんたいせつなものをもっていきました・・・。

このほかにもバルカン半島の国々の昔話がたくさんあります。



## お皿のボタン

たかどのほうこ / 作・絵 偕成社 [913タ]



高橋さんの家のかざりだなの上には、とれたボタンをいれておくひらたいお花のような白いお皿がのっています。ボタンたちはそれぞれいろんなことがあって、このお皿にはいることになったのです。そんなボタンたちのおはなしを聞いてみてください。

## どっさりのぼく (いきることば 絵本かがやけ詩)

小池昌代 / 編 あかね書房 [Eオ]

ぼく

秋原秀夫

ぼくの かぞく  
ぼくの ともだち  
ぼくの がっこう

ぼくが すんでいる まち  
ぼくが すんでいる くに  
ぼくが いきている ちきゅう

ぼくが  
だんだん ちいさくなる

あざやかな色の絵が美しい詩の絵本です。

2008.7